

# 沖縄北部ダムツアーリズムに関する意見交換会

## 北部やんばる水源地域の観光ポテンシャルについて議論

### 現地視察会の実施

昨年度、沖縄本島における水資源開発の節目を迎えたことを受け、ダム所在市町村長や中南部市町村会、観光関連・NPO代表者等により、沖縄北部ダム湖サミット宣言(※)が取りまとめられました。

このサミット宣言を受け、

- ① サミット宣言の実現
- ② 北部水源地域の活性化
- ③ ダムやその周辺地域等の魅力を活かした「沖縄北部ダムツアーリズム」の発信

を目的に、10月27日(月)に日本旅行業協会沖縄県支部(JATA)24名参加のもと、現地視察及び意見交換会を実施しました。

### ※沖縄北部ダム湖サミット宣言

- やんばるの貴重な自然は沖縄の宝であり、本島における貴重な水源地でもあることから、県民全体で森を守り、水を守ることが重要。
- 水源地やんばるの自然やダム湖の魅力を活かした活動を通じて、森や水の大切さを広く認識してもらえるように努力。
- ダムの存在する北部地域の連携のみならず、中南部地域との交流・連携を促進。



ダム堤体内部



ダム湖上流の幻の滝シゲランファー

### ■現地視察箇所

- |             |            |            |
|-------------|------------|------------|
| ○漢那ダム(宜野座村) | ○安波ダム(国頭村) | ○羽地ダム(名護市) |
| ・第二貯水池      | ・ダム貯水池     | ・ダム下流広場    |
| ・ダム堤体内部     | ・シゲランファーの滝 | ・ダム資料館     |
| ・魚道         | ・やんばる学びの森  |            |
| ・下流マングローブ   |            |            |

漢那ダムでは環境学習に適したヒオトープの第二貯水池(めだかの学校)や魚道、また施設見学として普段は見られないダム堤体内部の視察等を行いました。

安波ダムではやんばるの森と湖面のおりなす自然(景観・空気)を体感できる船上体験や地域において運営される環境教育センター施設「やんばる学びの森」の視察、羽地ダムでは歴史学習も可能な資料館やダム下流広場の視察・植樹体験等を行いました。

### 沖縄北部ダムツアーリズムの発信に向けた意見交換会の実施

現地視察後、JATAと北部自治体及び地元観光関係者等(計72名)を交えた意見交換会を開催しました。

北部地域からは市町村・各区・NPO等の地域活性化の取組の紹介がされる一方、現場を視察したJATA側からは、話題性のある取組や観光客誘致に向けたインフラ整備の必要性等の意見が出されました。



意見交換会開催状況

JATAと地元団体による意見交換会は今回が初めてでしたが、JATA側からは大変参考になったと好評で商品化を検討したい、また視察会を企画してほしいとの感想を頂きました。

### 地域活性化の取組事例

東村：自然遊覧船ゴンミキ号



10/27-NHK沖縄(18:10~Hot Eye)

日本旅行業協会沖縄県支部支部長のコメント

「沖縄は海というイメージがあるが、ダム湖の良さを知ることができた。今後、観光の良い商品になるのではないかな」

### 意見交換会における主な意見

- ・北部地域の様々な地域活性化の取組みを観光商品として活用できないか。(カヌー・民泊事業等)
- ・本土のダムと比較しスケール感が無い。話題性のある取組みを打ち出すことが重要。(例：観光放流・黒部ダムのトロリーバス・トロッコ列車等)
- ・修学旅行では今まで平和学習が主だったが、今後は環境学習や沖縄のダムについても知って頂くようなインフラ観光のムーブメントを起こせないか。
- ・沖縄の人でも沖縄のダムを知らない人が多い。まず家族でのピクニック等中南部の人々を誘導するようにすれば、口コミ等で県外からの観光客も増える。
- ・観光のリードは女性。女性の興味・関心をいかに取り込むかが重要。
- ・RVパーク(トイレ・水・電気)等のインフラ整備次第でキャンピングカーの文化を沖縄にも普及させることが可能。
- ・各地域個別の取組みについて横の連携や次につないでいく情報発信の仕方が重要。

今回頂いた貴重な意見を参考に各関係機関や北部地元関係者等と協力し、**各地域個別の取組について「横の連携」や「次につないでいく情報発信の仕方」**などを検討し、北部やんばる地域の活性化を見据えた「沖縄北部ダムツアーリズム」の発信を図って行きます。